
目次

- 【1】 --- 連載開始! 教員コラム第 17 弾 第 1 回
「京都府立医科大学附属図書館の役割について」
附属図書館長(法医学)/ 池谷博

- 【2】 --- 大学の記念誌や紹介冊子を「橘井」「デジタルアーカイブ」にアップしています

- 【3】 --- 現況調査実施中! 回答は 7/7(金)まで

- 【4】 --- 2022 年 SCOPUS の CiteScore が発表されました

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 連載開始! 教員コラム第 17 弾 第 1 回

「京都府立医科大学附属図書館の役割について」

附属図書館長(法医学)/池谷博

4 月より図書館長に就任した法医学教室の池谷です。若いころは頻繁に図書館を訪れ、最新のジャーナルの掲載論文のコピーをお願いしたことを覚えています。最近図書館に足を運ぶことが少なくなり、図書館長に任命された際に図書館カードを探し回ってしまい、非常に恥ずかしい思いをしました。

これを機に、図書館の歴史を簡単に調べてみました。

図書館の歴史は非常に古く、紀元前 7 世紀にはアッシリアに粘土板の図書館が存在したと言われていました。古代で最も有名な図書館は、紀元前 3 世紀のアレクサンドリア図書館です。中世ヨーロッパでは、修道院が知識の保管や学問の中心となりました。修道院図書館では、聖書や宗教関連の文書が中心に収集され、修道士たちによって保管や研究が行われま

した。15世紀以降、印刷技術の発展に伴い、本の普及が進みました。17世紀には、公共の利益を目的とした最初の公共図書館が誕生しました。イギリスのサザーク区の図書館がその一例であり、これ以降、世界中で公共図書館の設立が進みました。19世紀から20世紀にかけて、図書館の形態と機能が進化しました。多くの国や都市で公共図書館が設立され、大衆の教育と情報へのアクセスが促進されました。また、学術図書館や専門図書館も発展し、特定の分野の専門知識を提供する役割を果たしました。

筑波大学名誉教授の植松貞夫氏が「図書館施設論」の著書の中で、日本における現代の図書館建築を歴史的にとらえる視点を示しています。1950年代を(1)勉強部屋図書館の時期、1960年代と1970年代を(2)貸出サービスの発展期、1980年代を(3)ニーズとサービスの多様化の時期、1990年代半ば以降を(4)ICT活用サービスの進展期として、4つに時期区分して、それぞれ典型例として、八戸市立図書館(60年代)、日野市立図書館・町田市立図書館(70年代)、朝霞市立図書館(80年代)などを挙げています。20世紀末から21世紀にかけて、デジタル技術の進歩により、図書館も大きな変革を遂げました。電子図書やオンラインデータベースの普及により、電子図書館が登場しました。これにより、インターネット経由で広範な情報にアクセスすることが可能になり、図書館に赴かなくても自宅などで図書を検索し、読むことができるようになりました。特に最新の情報を必要とする研究者にとっては、電子ジャーナルの利用が研究の推進に欠かせないものとなってきています。

現在の京都府立医科大学附属図書館の建物は、1992年に創立120周年事業として開設され、長年学生の勉強や研究者の研究活動のためにはならない役割を果たしてきましたが、例外なく、時代の流れの中で大きくそのニーズが変化しています。近年の電子ジャーナルの普及に伴い、年々来館者は減少しており、このままでは建物としての図書館の存在意義が問われる事態になりかねません。

アメリカなどでは、1990年代頃から学生の学習支援をする施設として、大学図書館の中にラーニングコモンズという施設が設けられることが増えてきました。研究者への支援はオンラインで大部分が賄われるようになり、図書館の建物では従来の「静かに一人で勉強をする」という場所を提供するだけでなく、情報通信環境が整備され、主に学生たちが自主学習やグループ学習などを行える学習コミュニティの支援が行われる機能が追加されてきています。このような図書館のラーニングコモンズは、最近では日本の大学においてもだんだん普及してきています。

京都府立医科大学附属図書館は、基礎・臨床医学舎や看護学舎からもアクセスが良く、大学の規模から考えても非常に立派な図書館だと自負しています。図書館が大学における教育・研究に最も重要な施設の一つであることは疑いもない事実ですが、もし他の大学と同様

に学生の学習支援の場であるラーニングコモンズを設置できれば、時代に合致した図書館の役割を追加することができ、図書館の存在価値を一層高められるのではないかと考えています。

次の 150 年に向けて、大学における教育研究に不可欠な附属図書館へのご支援を引き続きお願いするとともに、図書館の活性化のためにご利用者の方々の様々なご意見をいただきましたら幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

※今年度も先生方にご協力いただき、隔号にて<教員コラム>を連載予定です。第 17 弾は今年度、図書館長に就任された池谷先生からスタート！これからも楽しみに！（編集担当より）過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- 大学の記念誌や紹介冊子を「橘井」「デジタルアーカイブ」にアップして

います

.....

大学の貴重な資料を保存、管理するのも図書館の使命。電子資料であれば、大学リポジトリ『[橘井](#)』にて世界発信も行います。このたび、以下の 4 誌を『橘井』にアップしました。

- ①『[京都府立医科大学大学昇格 100 周年記念誌](#)』（2021）
- ②『[創立 140 周年大学紹介冊子](#)』（2012）
- ③「The KPUM TIMES」[vol.7](#)(2021)
- ④「The KPUM TIMES」[vol.10](#)(2023)

①の大学昇格 100 周年記念誌は、[デジタルアーカイブ](#)でも公開しています。学内の皆さんも、ぜひ一度ご覧ください。

【3】 --- 現況調査実施中！回答は 7/7(金)まで

.....

ただいま各所属宛てに現況調査の調査票を配布しています。

現況調査では、図書館利用証をお持ちの方の在籍状況や職名変更等を伺います。

すでに回答いただいた皆様、ご協力ありがとうございます。まだ回答がお済みでないご担当様、7/7(金)までにご提出のほど、よろしく申し上げます。

【4】 --- 2022 年 SCOPUS の CiteScore が発表されました

.....

エルゼビア社が発行するデータベース [Scopus](#)(スコープス)に、最新のジャーナル評価指標 CiteScore がアップロードされました。

・ CiteScore2022 :

あるジャーナルの 4 年分(2019-2022)に掲載された査読論文が、特定の年(2019-2022)において、平均で何回引用されているかを示す指標 (毎年更新)

・ CiteScoreTracker 2023 :

翌年の CiteScore が算出されるまで毎月更新

↓ SCOPUS はこんな指標も提供しています ↓

・ 論文ごとの被引用数と被引用文献

・ 著者ごとの文献数や被引用数、共著者

・ 所属機関ごとの分野別文献数、共著機関

・ SJR(Scimago Journal Rank) :

引用元のジャーナルの評判によって引用に重み付けした指標(平均=1)

・ SNIP (Source Normalized Impact per Paper) :

分野による引用のされやすさの違いを考慮して、被引用率を補正した指標(平均=1)

Scopus における CiteScore 評価指標の用途については [こちら](#) をご覧ください。

クラリベイト社が発行する JCR のインパクトファクターは、2021 が最新です。(6/22 現在)

[Book Review]

.....

テオプラストス著、森進一訳「人さまざま」(岩波文庫,1982年)

古代ギリシアの平凡な人びとの世態人情を、アリストテレスの愛弟子が、軽妙なタッチで綴った人物スケッチ30編。

空とぼけ、へつらい、無駄口、粗野、お愛想、無頼、おしゃべり、噂好き、恥知らず、けち、いやがらせ、頓馬、お節介、上の空、へそまがり、迷信、不平、疑い深さ、不潔、無作法、虚栄、しみったれ、ほら吹き、横柄、臆病、独裁好み、年寄の冷水、悪態、悪人びいき、貪欲と、多岐にわたる人間味あふれる内容となっている。

いくつ該当するかを自問自答しつつ読み進めていくのも一興。私の場合は、数個であったため、自己評価としては、悪くはないかと…。(T.H.)

(木津川市中央図書館所蔵「[K-Libnet](#)」で貸出が可能です。)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4003360915#reviewLine>

.....

図書館メール News 第 494 号 2023.6.22 発行 (隔週木曜日発行)

編集・発行：京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<http://www.kpu-m.ac.jp/k/library/websevice/mailnews.html>